

米CPIは伸び鈍化、利上げ圧力緩和へ

ポイント① 7月の米CPIは予想以上に減速

米労働省が8月10日に発表した7月の米CPI（消費者物価指数）は、前月比で横ばい、前年同月比で8.5%の上昇となり、市場予想の8.7%上昇を下回りました。また、変動が大きいエネルギーと食品を除くコアCPIについても、前月比で0.3%上昇、前年同月比で5.9%の上昇と、市場予想の6.1%上昇を下回りました。この結果は、1年以上にわたってインフレ高進が続いていた中で、米国の物価上昇のピークアウトの兆しとなりました。

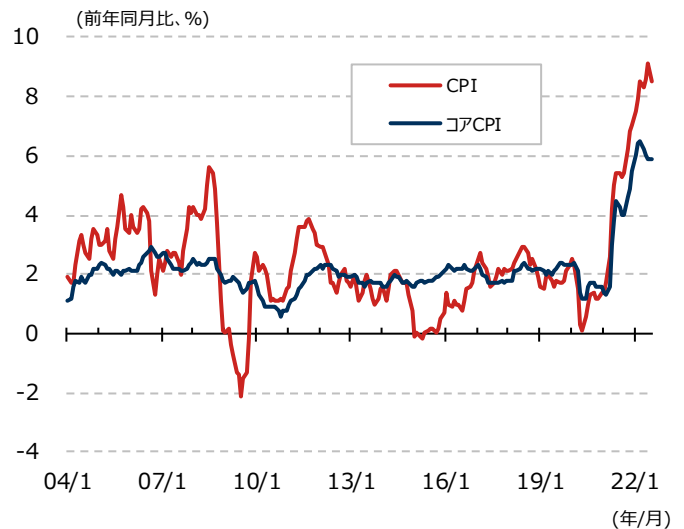
ポイント② エネルギー価格上昇減速が主要因

7月のCPIの減速の背景には、ガソリンや中古車価格の上昇鈍化がありました。ガソリン価格は前年同月比で44.0%上昇と、6月の59.9%の上昇から大幅に上昇幅が縮小、中古車価格も6月の前年同月比7.1%上昇から、7月は6.6%上昇に縮小しました。一方、食品や住宅費などの上昇は依然続いており、基礎的なインフレ圧力は高止まりしています。市場がインフレ緩和期待の方向に本格的に進むためには、今後数カ月にわたり物価上昇圧力の緩和を確認する必要があります。

ポイント③ 市場では利上げ圧力緩和へ

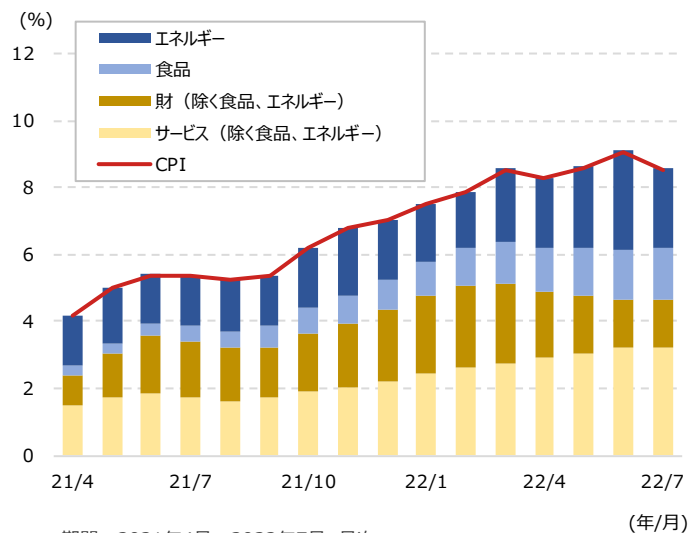
10日の米金利先物市場では、9月のFOMC（米連邦公開市場委員会）での0.75%利上げの観測が後退し、0.5%の利上げが行なわれるとの見方が強まりました。株式市場では、インフレ懸念後退を好感しハイテク株をはじめ幅広い銘柄が買われました。一方、債券市場では10-11日にかけて利上げの織り込みを示すとされる米2年債利回りはほぼ横ばいで推移しており、今回のCPIの減速は投資家の想定範囲内であったと考えられます。

米CPIの推移



期間：2004年1月～2022年7月、月次
 (注) コアCPIはエネルギー、食品除く
 (出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米CPIの項目別寄与度の推移
(前年同月比)



期間：2021年4月～2022年7月、月次
 (出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

8月12日 米ミシガン大学消費者マインド指数 (8月)

8月18日 米中古住宅販売件数 (7月)